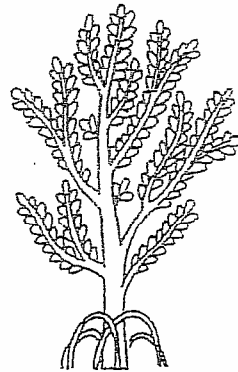


緑のまちあれこれ

○ 2008年の年が明けました。今年の年賀状は元旦の配達が例年の半分ほどで、さみだれ式に、だらだらと10日過ぎても来います。もう遙かかなたとなった、かつての首相が、刺客まで差し向けて推進した郵政民営化のサービスとは、結局はこのようなものだったのでしょか。年金問題、健康保険問題などの、これからは危ぶまれます。



○ 昨年暮れに、電柱に耳鼻咽喉科医院の看板が取り付けられているのを見ました。北国分駅前に耳鼻咽喉科の病院が開業したのです。目医者とか歯医者、マッサージの接骨院はあっても、耳鼻咽喉科はよほどの総合病院でも少なく、たしか国府台病院でも毎日の診療ではなかったように記憶しています。人口がそれほど増加したわけでもないのに、だれど病院ができたのはほんとうに助かります。

○ 北総鉄道交差の説明会があったのでくわしいことは聞いていないのですが、外環松戸地区の部分供用についての説明会が松戸であったとか。要は、三郷ジャンクションから江戸川を渡って千葉県に入る高速道を走る車が、水戸街道から矢切のバス通りへとなだれ込んで来るということなのでしょう。市川市での排気ガス汚染濃度が高い場所といえば、湾岸道路と京葉道路、千葉街道（国道14号）と県道1号（市川松戸線）ですが、いずれも大型ディーゼルトラック通行の影響です。外環はもともと地方からの大型トラックを都心に通さず、高速道を首都圏の外側に張りめぐらせて物流を推進させるためのものですから、この部分供用によって今まで以上に大型トラックが松戸街道に入ってくることになります。バスの渋滞と大気汚染の増加は必至となります。交通事故や健康被害が心配です。

■編集後記■ 今年は平成20年。明治は遠くなりけり。大正96年、昭和82年にあたります。今年は外環問題が、北国分にとって大変な年になりそうです。そこで新春号でもあり、今年の問題点を考える意味でも増ページして、特大号になりました。なによりも北総鉄道との交差部分工事に伴う迂回路が、北国分住民の生活にとって大きな問題となるのではないかと思います。1丁目あたりが現在の下矢切商店街のようにならなければよいのですが。表紙は、いつものように竹内庸悦さんをわずらせました。今年の外環工事の実態を、ブルドーザーが如実に示しているようです。（K）

# 緑のまち

—北国分だより—



第84号 2008.1.25 発行

編集 北国分外環対策協議会  
市川市北国分 3-7-5 三好方  
Tel 047-372-7898

2008年  
恭賀新春



## 外環・北総交差部工事説明会

平成 19 年 11 月 28 日（水）午後 7 時 国府台小学校体育館

型どおりの開会のことは、工事者側の出席者紹介（首都国道事務所 市外環課 北総鉄道技術者）がありスライドによる工事説明が行われた。工事は北総鉄道に委託すること、交差部分の土かぶりが 2m であること、工事に伴う市道の付け替えなどの説明が中心で、工期は今年 12 月から平成 22 年いっぱい丸 3 年、作業時間は午前 8 時から午後 5 時まで、日曜・祭日、年始年末とお盆、ゴールデンウィークは原則として工事はしないことが説明され、質疑応答に入る。質問者から、この説明会と同時に、矢切で国の道路説明会が行われたことに対する抗議がされたのに対して、国道事務所は、今後こういうことのないように努めるの一言が足りず、たまたま重なっただけだと逃げようとした説明者のドジがあり、役人の答弁の無責任さを露呈した。役人は 3 年先には当事者ではなくなり、何とかクリヤーしたいだけの、異動するまでの職責意識しか持っていない。住民は生涯そこで生活しているのだ。工事車両の増加に対する質問も出る。1 日 100 台増える予想だとの答弁だが、これは確実に倍以上になることを示している。現在のトンネル工事での具体的な被害、振動や埃が指摘され、市の規制についても意見があったが外環課は今後の変化については答えられないとの立場に終始した。

首都国道事務所の所長がこうした説明会に出席しない以上、意味がないのだ。工事の中止とか変更とかを判断する責任のある人がいない。裁決して本省に具申する権限を持っているのは所長だけなのに、その所長が出席していないということは、工事課長に説明だけさせて、事務的に（形式的に）、ともかく説明会を済ませれば法的に手続きが終了することになる。国土省関係者のほうが、説明会の参加者よりも数が多かったことも問題だ。若手の所員を動員して、残業手当を支払い、ともかく何とか無事に乗り越えようとしている。

問題点は、北総線の上の土被りが 2m しかないこと、本当に大丈夫なのか、マグニチュード 7～8 の地震に耐えられるかどうか。地下水脈の問題、北総では現在でも排水には苦労しているはず。1 日 100 台の工事車両で 8 時間操業としても 5 分に 1 台通ることになる。工事車両の増加に伴う危険防止策、特に通学路安全指導対策等々、まだまだ多くの問題点が山積している。公式の説明会は終わったが、地元への具体的な説明を続けてほしいし、なによりもデータを公開してもらいたい。住民のコンセンサスなしには公共工事はありえない。外環工事が菅野・平田の住宅地域に入れば何十倍もの苦情が出ることになる。市川市としては少なくとも三年後には現実化する問題だ。市議会は自治会だけではなく、住民組織との具体的な対策に力を注ぐべきだし、議員も議会に予算を含めて市に働きかけるべきではないのか。国政がらみで今後とんでもないことになる可能性だってあるのだ。(K)

## 申入書

北国分外環対策協議会として、外環工事説明会の当日、以下の申入書を国道工事事務所・市外環対策課に提出しました。

外環工事説明会について、以下のことについて回答を求めます。

- 1 説明会の開催については、場所・曜日及び時間について地域住民の意見を最大限尊重すること。
- 2 11 月 28 日は松戸においても説明会が開催されると聞いている。両方に参加できるよう調整すること。
- 3 外環道路は完成時に一括供用することになっているはずである。市川市北国分に掛かる外環道路の部分供用（二車線）については、事前に説明すること。
- 4 北総線と交差する外環道路の工事を予定しているが、地盤の強度、地下水の排出などについて、理解と納得ができるよう説明し、地域住民が安心して生活できるようにすること。
- 5 小塚山トンネル工事に際して、24 時間の工事を中止することや騒音・振動などの被害について、改善を申し入れていたが、部分的にしか改善されていない。速やかに改善すること。

### 第 3 回公害調停

2007.11.15

千葉県労働者福祉センターで開かれ、住民 24 名が参加しました。調停委員長は「もう一二次争点整理のために調停をしたい。争点がある程度明確になった時点で現地調査を行いたい」と述べた。

### 第 4 回公害調停

2008. 1.10

千葉県教育会館で開かれ、住民 22 名が参加しました。調停委員長は、申請人に次回は質問事項に優先順位をつけるように、そして申請人の主張を明らかにするよう求めました。現地調査はそれ以降に行いたいと述べました。

次回は 5 月 8 日（木）2 時 30 分からです。

## 外環・北総線交差部工事説明会を聞いて

石居 隆行

昨年の11月28日の平日、国府台小学校で外環北総線交差部の工事説明会が行われました。当初事前にポスティングされた説明会案内のチラシを見てた私は、現在行われている小塚山トンネル工事に付随した単なる仮設道路の切り直し工事くらいに考えておりました。ところが実際の説明会は私達近隣住民にとっては、非常に重要な説明会であったのです。以下いくつか気づいた点を挙げてみます。

### 開催日時について

冒頭、私が単なる仮設道路切り直し工事くらいの印象しかもたなかった理由は、A4チラシのわずか50字余りの工事内容文言と、平日の午後7時からのスタートということです。当日、平日のこの時間帯の開催については、多くの方から「なぜこれ程重要な工事内容を、説明会参加が難しい会社勤務の方々を無視した設定日時なのか？」と、発言がありました。実際に20代から40代の方はごく少数の参加でした。そして、質問時間も短く、尻切れトンボでした。これについては、対策協議会役員の方々と参加させていただいた12月17日の市川市外環推進課の福田課長との話し合い中で、各自治会の「土日をご容赦ください」が主な理由のようです。果たして本当に自治会の責任者の方がこのような回答をするのでしょうか、甚だ疑問が残ります。

### 騒音・振動及び工事期間

今回の説明会でも、A4版13ページの説明要旨が配られました。“低騒音・低振動機械を使用します”等、お決まりのあいまいな表現が並びます。現在小塚山トンネル工事が進行中です。覚悟はしていましたが、重機2台以上が動き、掘削工事が始まれば、常時震度3以上の振動が2週間から1カ月と続きます。北総交差部の工事でも同様な工事が行われ、平成22年までの予定ですが、工事の状況によってはさらに期間は延びていくと思われ、そこまで我慢するにも限界があり、悔しい限りです。私の家の隣地で騒音・振動測定を行っています。振動が無いときに限ってコンサル会社が測定しているので、施工会社と意図的に連絡をとりあって行っていると思えません。この点は対策協議会の方とモニタリングデータの開示等を求めていきたいと思えます。

### 北総鉄道交差部分の構造

本線道路構造躯体であるスラブベース下端から鉄道トンネル上端までの土かぶり、わずか2mという点に関しては、説明会参加者のどなたもが驚いたようです。私も今後北総鉄道は、乗車する気にはならなくなりました。一步も二歩も踏み込んだ説明が無ければどなたも納得しないでしょう。挙げれば切が無く、悲観的になりますので、このくらいにしますが、今後も注意深く気づいた点は記録しておこうと思います。昨年から本格的な工事に突入した小塚山トンネル工事状況の推移を見ても国交省側は、常にあいまいな説明の内に、隙あらばどんどん工事を進め、様々な住民への問題が噴出すると後付のような説明で誤魔化す。役所お得意のスタンスです。昨今の年金問題、薬害問題を見れば、もう国のやることなど誰ひとり信用してはいないでしょう。この天文学的莫大な工事費をどこから捻出して工事を進めようというのでしょうか。自分に実益が及ばないと、なかなか関心が向かないのも事実です。近年、パワービルダーによる新築住宅に移り住んでこられた若い世代の方も、今一度矢切のインフォメーションセンターの完成予想模型をご覧になり、完成後、どれだけ近隣住民が不便になるか、再確認してみてください。

### 愛する北国分の今後は……

川向こうの小岩の幹線道路沿い（騒音・排ガスもくもく）に住んでいた私は、父が「市川の博物館近くの“空気が良い所”にでも住めたらいいね」と、念願叶って24年前、現在の小塚山に移ってきました。引越しの後、家のボイラーに“ミヤマクワガタ”がいたときの感動は今でも忘れることはできません。昨年もなんとかミンミン、ヒグラシが鳴いてくれました。特にじゅんさい池の間近で見たウグイスのさえずりは、近年に無いすばらしいものでした。虫さん、鳥さん、今年も工事に負けずに鳴いて下さい。これだけの工事が進行しては、私はほとんど諦めております。父も趣味の活動拠点を富里へ移しました。東の鎌倉と呼ばれる“緑溢れる市川”も、やがて「排ガスあふれる市川」になってしまうことは非常に残念で悔しいことです。それは、“いちかわ”が「市川」でなくなることを意味します。4000年前の大昔からの一等地である「北国分」を含めて、その時になってどれだけの人が「市川」を愛することが出来るのでしょうか。最後までささやかなる抵抗を皆様と共にしていきたいと思えます。

## みどりの道（国交省発行）38号を読んで

中村 祐三

国交省の外環情報誌‘みどりの道’38号で、市川市の千葉市長は女優の江口さんと対談し、市川の夢を早く実現するために、そして市川をWHO健康都市にするためには、外環を早く完成させることが必要だと断言しています。市長によれば、市は車の渋滞によって空気が汚染していて困っている。道路は体で言えば血管にあたり、血管が太い血管から細い血管に流れていくように車も道路を流れていなくてはならない。だから外環のような太い道路が完成すれば渋滞は解消し、外環ばかりでなく市内の毛細血管のような道にまで車が流れて、市川市のポテンシャルを向上させてくれる。計画立案後40年近く経っているのだから、法的手段をとってでも進めるべきだと言っています。

たしかに今市内の道路の渋滞は激しく、細い道路にまで大型トラックやダンプが疾走し周辺住民の健康や歩行者の安全を脅かしています。なんとかしてもらいたいと思うのは当然です。しかし、市長の言う通り外環が出来れば本当にこういう状況が改善されるのでしょうか。わたしには到底信じられません。

東京大気汚染訴訟の結果を見ても、太い環状道路が汚染要因となっている事は、裁判の判決でさえ認めていることです。埼玉外環の周りでは明らかに大気汚染が進み、また周辺での交通事故件数も増加しています。この事は、市長も気にしているらしく、埼玉外環は高架なのを市川地区では半地下構造にして環境保全に配慮したと言っていますが、出された排気ガスはむしろ付近に滞留する事になって、汚染が少なくなると思えません。さらに外環が出来れば、付近の生活道路にまで車が入り込むことは、埼玉外環で証明済みで、そのための交通事故も増えているのです。血液が毛細血管に流れ込むのと同じに考えるなど問題外です。大体、外環を利用する1日数万台もの車の殆どは市川市を通り過ぎ、排気ガス・粉塵・騒音被害を残すだけで、市川市にとっての利便性は皆無と言っているのではないのでしょうか。

市長が触れていないことで大変気になることがあります。その一つは地下水の処理の問題です。市川区間の外環は高架ではなく、多くは半地下方式になるということで、外環は市内で幾つもの川を横切っていくわけですが、排水処理は大丈夫なのでしょう。矢切・北国分地区の地下を通る北総電鉄では、毎日多くの地下水をポンプで出していますが、同様の問題が外環でも起こることが予想できます。それらについての対策が充分なのか不安です。

二つ目は北国分地区で外環は北総のトンネルのわずか2m上を通ることになっていますが本当に安全なのでしょう。これらのほかにも、これまで多くの質問・疑問が住民か

ら出されてきていましたが、国交省も市も納得のいく回答を寄せていません。道路計画立案時と全く異なった町の状況を見ても、町を真っ二つに分断する事になる道路を強引に進めてきた結果が、今も住民の反対をひきおこしている事を考えれば、法的強制措置を取るなど、あつてはならないことだと思います。市長の夢が私たち市民の悪夢にならないようにしたいものです。

## 北国分地区を中心とした問題点についての話し合い

（北総鉄道交差部分工事説明会を受けて12月17日市川市外環推進課と交渉）

市川市松戸市外環連合・北国分外環対策協議会

住民5名が市役所で懇談しました

説明会のあり方について

1 国道6号から県道市川松戸線までの部分供用の説明会が、同じ日に開催された経緯について説明するとともに、北国分地区など市川側の住民への説明の機会を国側に約束させてください。

2 今後の説明会開催にあたっては、以下の点に留意してください。

説明会は土曜、日曜の、日中の参加しやすい日時を選ぶべきであること。

会場については、地元の状況を把握して関係住民が参加しやすい場所を選ぶこと。住民との質疑応答に十分な時間をあて、疑問点が残った場合は継続的な話し合いの機会をもうけることを原則とすべきこと。

住民団体が運営する質問集会に積極的に応じるべきであること。

「住民の理解を得る」は「ただ我慢してください」ではないはず。本当の意味で「住民の理解を得る形で工事を行う」ことを前提にしてください。

- 1 トンネル工事関係の問題点が解決していない。既に行われている工事での問題点が解決された上で次の工事を行うべき。
- 2 今後さらに新しい工事が行われるとどんな状況になるかがまったく説明されていない。
- 3 工事期間は通常の工事と違い何年にもわたる長期となるはず。しかも、本来風致地区としての環境が守られるべき地域なのだから、騒音や振動の許容限度は通常の生活環境基準に準じたものでなくてはならない。
- 4 遺跡調査は定期的に成果を公表し住民の理解を得ながら進めるべきこと。

北総鉄道との交差部分の工事について

- 1 市川市は国と北総鉄道が今回の工事に関し、どう責任を分担しているかを明確に

するために両者でかわしている工事請負契約書の内容を知っておくべきだし、住民にも公開されているべきである。

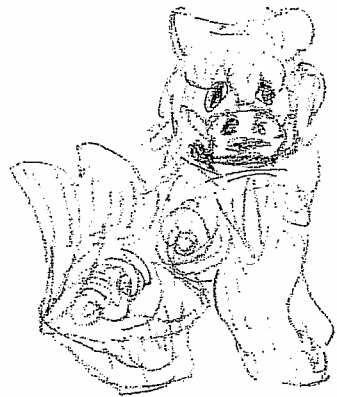
- 2 説明された交差部分の構造には不安を感じている。鉄道トンネルと高速道路が交差する場合についての一般的な設計基準とはどのようなものかや、他の類似例を示すなどして構造上の安全性について納得のいく説明が欲しい。
- 3 工事に際しての地盤沈下に関する保全目標値はどのようなものか。

部分供用について

- 1 「部分供用すれば周辺道路への混乱が生じるから部分供用はしない」という説明が市議会の外環対策特別委員会であったはず。それが一転して部分供用することになった経緯を説明して欲しい。

### 交渉の結果

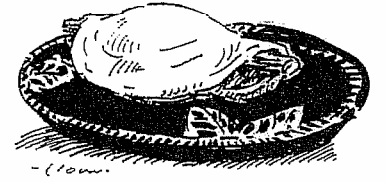
- 説明会の開催日については自治会側から土・日を避けてほしいと言われるケースが多いことに配慮した結果である。今後は対策協議会にも事前に相談するようにする。
- 「夜間のトンネル工事は手動による土砂の移動のみを行う」という約束が守られなかったために大きな振動が発生した。今後再びこうした事態が繰り返されたなら、24時間工事の中止も検討する。
- 遺跡調査については、定期的に住民に調査の状況が公開されるよう求めていく(住民が文化遺産を共有するために)。
- 北総鉄道との交差部分の工事に対する住民の疑問には、市では説明できないので、事業者側による追加説明の機会を設ける方向で検討する。
- 県道松戸線から国分線にかけての部分供用については、その内容が住民に理解されていないようなので、説明の機会をつくる。



## 花びらもち

竹内照子

新春の茶席で必ず頂く和菓子に“花びらもち”(正式名“菱葩”)がある。黒塗りの縁高に盛り、黒もじの楊子を添えて出される、うす紅色の半月形のおもちはほのかな味噌味の白あんを包み、柔らかく炊いた細い棒状の牛蒡を横長に一本はさんである。その“花びらもち”を懐紙



に取り、口に運ぶ時、フツといにしえの大宮人に自分を重ね合わせたような思いがよぎる。忙しくとりとめなく過ぎる日常の中で、今年もまたお仲間と祝いの茶を頂き、心静まる一瞬を持つことの出来た倖いを深く思う。

茶席の菓子は季節感を大事に、花鳥風月の意匠をこらし、和歌・俳句と結びつけて銘をつけている。それを目にし、口にする楽しさもまた大きい。因みにこの市川市では、本八幡の「若柳」店が小規模ながら手作りで、誠に茶に相応しい菓子を提供してくれる。

### 《新春詠》

初明り

山本愛子

初明り 朱(あか)ひと刷きの向ふ山  
見馴れたるクレールン車の無く初御空

たわいなき初電話なり笑顔見ゆ

書初め

三好ひろし

万葉の憶良のうたや書初めす

幻は白馬か鶴か今朝の春

雪之丞も鞍馬天狗も松の内

## 探鳥会

日時 平成19年12月2日(日)  
 天候 晴

参加者：石居 石居 石居 市田 今井 川上 川上マユ 越田  
 斉藤 佐々木 佐々木 佐々木 笹子 笹子 鈴木 竹内  
 野沢 日ノ出 三好 村岡 吉田 21名

確認された鳥：

カワウ カルガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ  
 ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ユリカモメ  
 キジバト コゲラ ヒヨドリ ウグイス キクイタダキ  
 ヤマガラ エナガ シジュウカラ メジロ カワラヒワ  
 ハシボソガラス ハシブトガラス 計21種

コメント：

好天に恵まれ、小さい子供さんも加わり、21名の参加者となりました。小塚山では、キクイタダキが3羽も間近に見られました。その他メジロコゲラ エナガ シジュウカラ等数多く見られましたが、地上にいるアオジ シロハラ トラツグミ等が一羽もいませんでした。やはりトンネル工事の振動が影響しているものと思います。じゅんさい池では、トモエガモのオスが2羽も見られ、皆大喜びでした。(村岡幸生)

## バードウォッチングに参加して

小塚山からじゅんさい池まで

佐々木 陽子

私にとって初めてのバードウォッチングでした。野鳥の名前などほとんど知らなかった私でしたが、あっちこちから姿を見せてくれる鳥たちを見たり、鳴き声に耳をすませたりしていると、いつの間にか自然の中に溶けこんで行くような気がしました。

私達が生活している身近な所にたくさんの野鳥が共に生きている事に、ちょっと驚きを覚え、この環境を守っていく事は人間の大切な役目なのだと思います。

めずらしい野鳥の名前や特徴などを解りやすく教えていただいた村岡さん、ありがとうございました。

次回は

2月17日(日)

集合：小塚山あずまや

4月29日(祝)

AM 10:00

## 小塚山のキンランに思う

谷口 浩之

「谷口さん、キンランが咲いたの。みんなに知らせたいので写真を撮っていませんか」と、朝倉かつ子さんから電話があったのは、4月30日の夜でした。その声は、キンランを見つけた興奮そのままに受話器から聞こえてきました。自然との出会い、一期一会を大切に作る朝倉さんはその時、どんなに感動したことでしょう。想像がつきます。



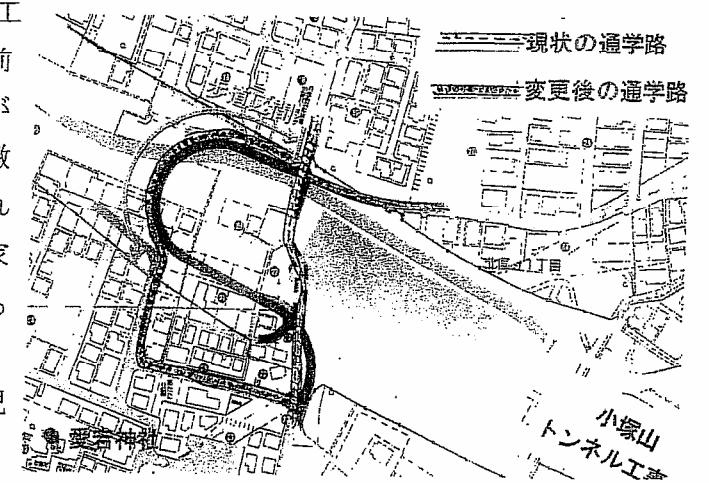
早速、翌朝デジタルカメラを持って探鳥会で見つけたという小塚山に妻と急ぎました。黄色に輝く花が、20株ほどあったのでしょうか。今までとは違う場所に咲いていました。探鳥会参加者も無息を呑んだ事でしょう。きちんと撮ろうと雨上がりの翌日、ポジフィルムを詰め三脚を持って行ったところ、心無い者の手で花は摘みとられていました。

その後、総会レポートにデジタル写真が載り、そして自然を愛してやまなかつた故三宅佳子さんの追悼文の中で、朝倉さんはキンランに触れ、豊かな生命を育む緑地を守る運動の大切さを説かれました。野の花を大切に思う心。これが運動の原点だと思いました。

## 通学路が心配

外環北総鉄道交差部分工事による迂回路

昨年11月の国土交通省の説明会で示された迂回路です。これまでの市道は閉鎖されま



す。大きくU字形に迂回する道路の工事が6月ころまで行われます。その前に、北総鉄道交差部分の土取り工事が行われるので、大型ダンプの往来が激しくなり、迂回路が出来た後でもこれらのトラックが頻繁に通ります。人家に近かったこれまでの通学路から比べると、まったく人気のない所です。歩く距離も大幅に増えるので、通学児童の安全が心配です。